

### 【短報】東京都内平野部からのウスキボシハナノミの記録

ウスキボシハナノミ *Hoshihananomia kurosai* Chûjô et Nakane は、北海道奥尻島から屋久島にかけて局地的に分布するハナノミ科甲虫である（高桑，2006）。東京都に隣接する神奈川県では、近年平野部を含めた各地から採集されており（高桑，2006）、横浜市内の緑区（大木，2006）から採集例もある。東京都からは、高桑（1978）が山間部の奥多摩町海沢での採集記録を報告しているが、平野部からの報告はない。筆者らは、都内平野部で本種を採集しているのので、報告する。

1♂，小金井市桜町三丁目。4. VII. 2010；1♂，小金井市前原町二丁目。17. VII. 2011；1♀，同所。23. VII. 2011。以上、宮川採集・保管。

1♂，小金井市緑町三丁目，10. VII. 2012；2♂，同所，13. VII. 2012/08/14；1♀，同所，17. VII. 2012。以上、櫻井採集・保管。

本種は桑畑でまとまった数得られた例が知られており（横井・田添，1989）、クワの枯死株からの羽化脱出（横井，1991）も報告されている。一方、佐藤（2011）は、本種のホストとしてカスミザクラの立ち枯れ本体から落下した太枝と枯死したソメイヨシノを報告している。櫻井が採集した個体はすべて、胸高直径約 40 cm、樹高 10 m ほどのクワ生木の地上 2.3 m 部分から出ている長さ 110 cm、直径 10 cm の枯れ枝（図 1，2）から、13 時～15 時頃にかけて得られた。この枯れ枝には、佐藤（2011）が報告したような直径 3～4 mm の脱出孔は見られなかったものの、いずれの個体も、枯れ枝表面をせわしなく歩いたり、時々休止したりしていたもので、この枯れ枝以外の生きている部分からは見出すことが出来なかった。

宮川の 2010 年採集の雄は、樹洞があるカエデ属木本の樹皮上で、2011 年の雌雄は異なる 2 本のリョウブの花上で得られた。本種の訪花について、横井（1991）は、夕方にヒメジオンに飛来した、また、高桑（2006）は、訪花例はごく少ない、と報告している。今回の宮川の記録は、咲き終わりに近いリョウブの花上の個体を発見し掬い網で採集したものであることから、リョウブが本種の訪花植物であることを強く示唆する。なお、採集時間は特定できていないが、7 月 17 日は 16：15～18：45、7 月 23 日は 14：30～17：00 であった。

本稿を草するに当たり、記録の発表を勧めてくださった雛倉正人・伊東憲正両氏、文献をご教示いただき原稿を見ていただいた高桑正敏氏、文献収集にご協力いただいた平澤桂氏に深く感謝の意を表す。

#### 引用文献

- 大木 裕，1991. ウスキボシハナノミの横浜市緑区の記録. 甲虫ニュース，(93): 8.  
 佐藤福男，2011. 秋田県におけるウスキボシハナノミの記録と生態. 秋田自然史研究. (59): 31-34.  
 高桑正敏，1978. 日本産ハナノミ族の種別分布資料 (2). 甲虫ニュース，(43): 7-8.  
 高桑正敏，2006. 日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 9. 甲虫ニュース，(154): 1-7.  
 横井直人，1991. クワから羽脱したウスキボシハナノミ. ふくしまの虫，(9): 11.  
 横井直人・田添京二，1989. 桑畑のウスキボシハナノミ. 月刊むし，(216): 41.

（櫻井 博 184-0003 小金井市緑町 4-2-15  
 東京都葛西臨海水族園）

（宮川哲男 184-0003 小金井市緑町 1-5-1-109）



図1. ウスキボシハナノミが見られたクワ。中央の木の左側中央部斜め上方に張り出している枯れ枝で、活動している個体が観察された。図2. 同枯れ枝。